

令和7年度公衆衛生学前期試験 解答例

問1 (30 問×2 点)

(1) CEPH	(2) 健康	(3) 分布 (頻度と分布、だと△。この定義では「分布」のみ)	(4) 集団 (都道府県、市町村、国などでも文脈上 OK)、団体△、種△	(5) 罹患率または発症率。発症率や発病率は△。被患率、累積罹患率など別の定義がある語は×
(6) 間接法	(7) 時間性または temporality	(8) 自己選択 (選択だけでも可。[セルフ]セレクトションでも可)	(9) UNFPA または国連人口基金	(10) 栄養教諭
(11) 1,500	(12) 相対	(13) 労働安全衛生 労働衛生、労働安全は△	(14) 50	(15) 食品衛生
(16) 墜落・転落 (逆順でも○。片方だと△) 落下も△	(17) 転倒	(18) 一次 (一でも可)	(19) 指定添加物	(20) 10
(21) ビル管法 (建築物衛生法、建築物における衛生的環境の確保に関する法律)	(22) 2018	(23) 育成	(24) DV 加害者	(25) 4
(26) 検疫	(27) 30	(28) 集団	(29) 60	(30) 循環型社会形成推進基本法

問2. (10 問×2 点)

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
<b>b</b>	<b>c</b>	<b>a</b>	<b>e</b>	<b>d</b>	<b>b</b>	<b>c</b>	<b>e</b>	<b>e</b>	<b>d</b>

問3. (20 点:採点基準は、説得力があることが第一です。ただし事実認識の明らかな誤りは減点します)

[1] オタワ憲章における健康の前提条件とは、平和、住処、教育、食糧、所得、安定した生態系、持続可能な資源、社会正義と公平性、の8つであり、これらは健康のために必要な根本的な条件または資源である。災害が起こるとこれらの多くが損なわれる。(注:勘違いして Advocate, Enable, Mediate を書いた場合 6 点。Breslow は 3 点)

[2] 反事実モデルとは、例えば風邪薬の有効性を調べたい場合に、風邪薬を飲んで症状が翌日軽快した人に対して、その風邪薬服用が有効だったか調べるためには、同じ症状を呈していた時点で、「もし飲まなかったら」という事実に反する仮定的状況の結果を知る必要があるが、それはタイムマシンでもなければ観測不可能なので、個人レベルの因果関係は立証不可能であるという考え方

[3] 便利な化学物質として広く使われた有機フッ素化合物の総称が PFAS である。環境中で分解されないため、飲料水などを汚染していることによって健康を害するリスクが懸念されている。PFAS の中でも PFOA と PFOS は POPs 条約の規制対象物質である他、国内でも飲料水についての暫定基準値が定められているが、大きく基準値を超える濃度が検出されることがある。2024 年になって食品安全委員会が TDI (耐容一日摂取量) を発表したのが、欧米に比べて規制が緩いと批判されている。